

目指す学校像	一人ひとりの生徒が誇りをもち、保護者・地域住民に信頼され、未来を拓く学校の創造
--------	---

重点目標	1 教育DXのもと学習者が主体的に学ぶ個別最適な学びの構築と授業改善の推進 2 積極的な生徒指導と教育相談の推進により安心安全な学校づくりと活力ある学校行事の推進 3 学校運営協議会による地域とともにある学校づくりと地域で活躍する生徒の育成 4 同僚性を高め、協働して教育を推進する学校づくりのための教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価		学校運営協議会による評価		
年 度 目 標		年 度 評 価		年 度 評 価		実施日令和7年2月13日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ○全国学力・学習調査や市の学習状況調査では、市平均をやや上回っている。 ○学校評価における「一人ひとりに合ったきめ細かな学習支援を行っているか」の問いに対し、生徒の肯定的な回答は7割程度である。 ○「タブレット端末を授業で毎日活用している」と回答した生徒は5割を切っている。 【課題】 ○主体的に学ぶ姿勢の育成と個別最適な学びの構築が課題である。 ○学習に対しての興味・関心を広げ探究的に学ぶ生徒の育成を図る必要がある。 ○ICTの効果的な活用と、主体的対話的な深い学びの指導の工夫と改善を追求する必要がある。	・主体的な学びを進めるための情報端末の活用、授業改善 ・実生活に生きる学びのための各教科の動機づけと教科横断的な学習の工夫	① 文部科学省の「リーディングDXスクール事業」実践指定校の委嘱を受け、全教員でICTを効果的に活用した授業を行う。 ② 自分の学習課題を自分で決めて取り組む朝チャレンジを実施する。 ③ 「学力向上カウンセリング学校訪問」を実施し、効果的な指導法を追究して生徒の学力向上を図る。	① 学校評価における「一人ひとりに合ったきめ細かな学習支援を行っているか」の問いに対し、生徒の肯定的な回答が80%以上となったか。 ② 「タブレット端末を授業で毎日活用している」生徒が80%以上となったか。	① 学校評価における「一人ひとりに合ったきめ細かな学習支援を行っているか」の問いに対し、生徒の肯定的な回答は74.4%で目標値を下回ったが、前年度より5.3%上がった。 ② 「タブレット端末を授業で毎日活用している」生徒は82.8%で前年度の47.2%より35.6%上がり市平均の45.1%よりも37.7%上回った。	A	・学びのポイント「じ・し・ゃ・く」に基づく個別最適な学びをさらに推進する必要がある。 ① 低位層の底上げに重点を置き、自由進度学習を取り入れた授業をブラッシュアップする。 ② 教科の特性に応じて学習の個性化を推進する。	・学習が苦手な生徒への支援を厚くしてほしい。 ・タブレットの活用と紙に書くことと実体験等のそれぞれの長所を生かした学習活動を行ってほしい。 ・変化が激しい時代に対応できるように、自立した学習者を育ててほしい。
2	【現状】 ○学校評価における「木崎中が好き」の問いに対し、生徒、保護者とも肯定的な回答は8割を超えている。「連絡・相談に適切に対応している」では、保護者の肯定的な回答は8割を超えている。 ○安全教育における避難訓練は概ね真剣に取り組んでいる。また命を守ることに對しての教職員の意識も高い。 【課題】 ○登校しぶりや不定愁訴を訴える生徒が少なくないこととそれに対応する職員の経験不足が課題である。 ○毎月の安全点検の確実な実施と生徒への注意喚起、生徒自身の安全への意識を高めることに課題がある。	・魅力があり生徒の活力を育成する学校行事の推進—生徒の自立を促すという大前提のもと— ・きめ細かく対応する生徒指導、教育相談の実施	① 生徒会や生徒委員会を活性化して生徒の活動の場を増やす。 ② 生徒の意見を取り入れながら、男女同一標準服を導入する。 ③ リーダーを育成するという教職員の視点を重点化する。	① 学校評価における「木崎中が好き」の肯定的な回答が2%以上増えたか。 ② 生徒が積極的に学校生活を送り、行事等に取り組めたか。	① 学校評価における「木崎中が好き」の肯定的な回答は「思う」が41.1%で+2.1%だが、肯定的評価全体では前年度と同じ82.8%だった。 ② 生徒が積極的に学校生活を送り、行事等に取り組むことができた。	A	・生徒主体に魅力ある学校づくりをさらに推進する。 ① 生徒会や生徒委員会を中心に生徒主体の教育活動を充実させる。 ② 生徒の意見を取り入れながら、男女同一標準服へ移行する。	・生徒が行事等で生き生きと活動していたように思う。 ・スクールダッシュボードは、教員が気付かない点を補うメリットがあると思うので、是非活用してほしい。 ・Solaの一むは人も予算もつかない中、大変だと思うが、とても意義のあることだと思うので、体制を充実させて、子どもの居場所を確保してほしい。
3	【現状】 ○学校運営協議会で本校生徒につけたい力、並びに地域に貢献する生徒の育成という方向が確認されている。 ○関係機関との生徒に係る連絡会は年2回開催することが定着している。 ○部活動の地域移行と男女同一標準服の導入についての意見交換を行っている。 【課題】 ○地域との連携に関して、教員の働き方改革との両立が課題である。 ○コロナ禍以降に着任した教員への地域とともにある学校づくりの啓発が必要である。	・保護者、地域への学校公開 ・木崎中生が取り組む地域活動と、地域のボランティア活動への参加	① 学校公開日年1回、授業参観年3回、学級懇談年3回実施する。 ② 学校からの各種便りをペーパーレス化し、スクリレを導入してスマホに直接配信する。 ③ ブログを新設する等、学校ホームページを充実させる。	① 学校評価における「学校や生徒の活動の様子が保護者に伝わっているか」の肯定的な回答が9割を超えているか。 ② 学校ホームページが毎週更新されたか。	① 学校評価における「学校や生徒の活動の様子が保護者に伝わっているか」の肯定的な回答は82.1%で9割を超えることはできなかったが、「思う」が82.1%で配信アプリの活用により前年度の23.1%から59%大幅に上昇した。 ② 学校ホームページは毎週更新された。	A	・スクリレによる配信とホームページによる情報提供をさらに充実させる。 ① スクリレを活用する教員をさらに増やし、学校や生徒の活動の様子が随時発信する。 ② ホームページのブログの更新をシステム化し、毎週更新する。	・配信アプリを活用することで、学校の情報、クラスの連絡、部活の連絡等が容易にわかるようになってよかった。 ・公民館に生徒の作品を展示させてもらって、利用者からとても評判がよいので、来年度も引き続きお願いしたい。 ・小学校のイベントに中学生ボランティアに協力してもらってとても助かった。 ・地域の「ゴミ運動」等にも中学生ボランティアに参加してほしい。
4	【現状】 ○教育DXの推進とICTの活用においてエバンジェリストが率先して情報提供をしている。 ○研修担当が計画的に事故防止や資質向上に関する研修を行っている。 【課題】 ○教職員の経験値の差があり、資質向上の研修が絶えず必要である。 ○教科の特性や経験年数によってICTの活用状況に差がみられる。	・教育DXの実現を目指し学校教育のプロとしての自覚をもち、働きがいのある学校づくり	① 大東小と連携したリーディングDXスクール事業を小・中一貫教育により実践する。 ② エバンジェリストによる自主研修を実施する。 ③ 研究発表会、ICT教育先進校等への視察・派遣を定期的に行う。 ④ デジタル採点システムを導入する等、校務を徹底的に効率化する。	① 全ての教員が日常的にICTを活用する状況になったか。 ② 「学びの指標」の「ICTの効果的な活用」の平均値が3.3以上となったか。 ③ リーディングDXスクールとしてICTを効果的に活用した授業を学校内外へ公開できたか。	① 全ての教員とまではいかないが、多くの教員が日常的にICTを活用する状況になった。 ② 「学びの指標」の「ICTの効果的な活用」の平均値は前年度より+0.04で3.04となり目標値には届かなかった。 ③ リーディングDXスクールとしてICTを効果的に活用した授業を市のSSSP研修会やエバンジェリスト研修等で学校内外に公開した。	A	・タブレットの活用は、教科によって差があるので、活用する教科を増やすことが課題である。 ① ICT等の思考ツールを授業で活用するための校内研修を毎月行う。 ② 教職員にオンラインを含めてICTの効果的な活用に関する研修を奨励する。 ③ 「学びの指標」のICTの効果的な活用を目標値に設定して授業改善を進める。	・授業等でICTを活用することが増えているように思うが、教員も大変だと思うので、無理のないように進めてほしい。 ・ICT活用能力は、これからの社会で益々重要になってくるので、中学校で一生懸命取り組んでいることは、とても大切なことだと思う。